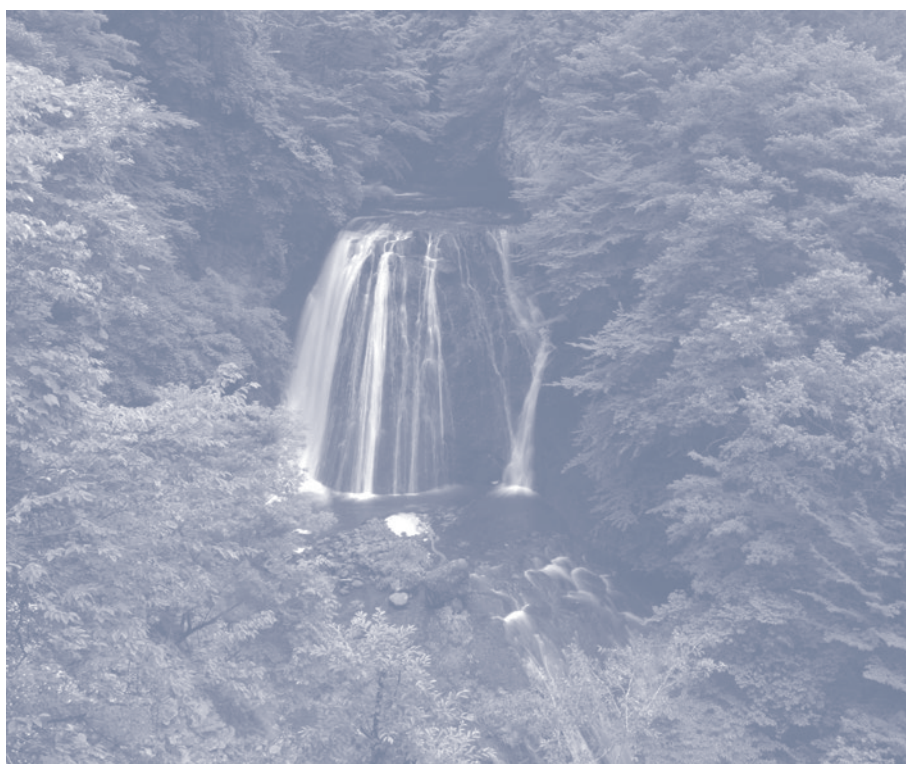


諏訪の景気動向

2021年8月

(2021年7月末D・I調査)



横谷溪谷 王滝 (茅野市)

《2021年8月25日》

諏訪信用金庫

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号

電話 0266-23-4567(代) FAX 0266-24-4055

諏訪地方の景気動向（2021年7月調査）

「2021年7月アンケート調査および企業訪問ヒアリング調査からまとめた諏訪地方の景況」

【概況】 諏訪地方 188 社のご協力で行った 2021 年 7 月の「景気動向調査(DI調査)」は、回答全社の「3 ヶ月前」と比べた業況判断DIが 16.4 となった。前回調査時(2021 年 4 月末、以下同)の 19.7 から、3.3 ポイント悪化したものの、2 期連続のプラス水準となった。前年同期比は 33.0 で前回の 20.2 から改善している。「3 ヶ月前」と比べた製造業の業況判断DIは 28.1 で、大幅に改善した前回の 37.3 からはやや悪化した。一方、非製造業(商業、観光・サービス業、建設業)の同DIは△4.5 で、前回の△13.5 から改善した。「3 ヶ月後」の業況予想DIは、製造業が 11.5(前回 11.2)とほぼ同水準で、非製造業は△1.5(前回△22.4)と改善し、回答全社では 6.9(前回△0.5)となった。

製造業は、世界経済の回復に伴い、受注環境が好転する企業が増加する一方で、原材料の価格高騰や調達不足が表面化している。建設業でも木材が不足するウッドショックが深刻化しつつある。7 月は 57 年ぶりに東京オリンピックが開かれたが、新型コロナウイルス感染拡大の緊急事態宣言下の開催で、諏訪地方への波及効果は少なかった。下旬には諏訪圏域でも感染者が急増したため、消費マインドが再び低下した。

製造業は、「3 ヶ月前比」で業況判断DIは 28.1 で、38.8%の企業が好転し、10.7%の企業が悪化した。45.2%の企業が好転した前回より好転企業がやや減少し、悪化企業が増加した。受注状況DIは、前回の 36.5 から 32.2 とほぼ同水準で推移した。収益性DIは前回の 11.9 から 16.5 へ改善した。一方、「前年同期比」では業況判断DIが前回の 36.6 から 54.6 と改善し、受注状況DIも前回の 33.4 から 57.1 へ改善した。総体的に回復傾向の一方で、「3 ヶ月前」に比べて 32.2%の企業が「原材料の確保不足」としている。原材料の価格高騰や品不足で調達が困難となり、納期に影響している企業が見られる。また、経営課題として「労働力確保」を挙げる企業が増えている。「3 ヶ月後」の業況予想DIは、前回の 11.2 から 11.5 とほぼ同水準となった。

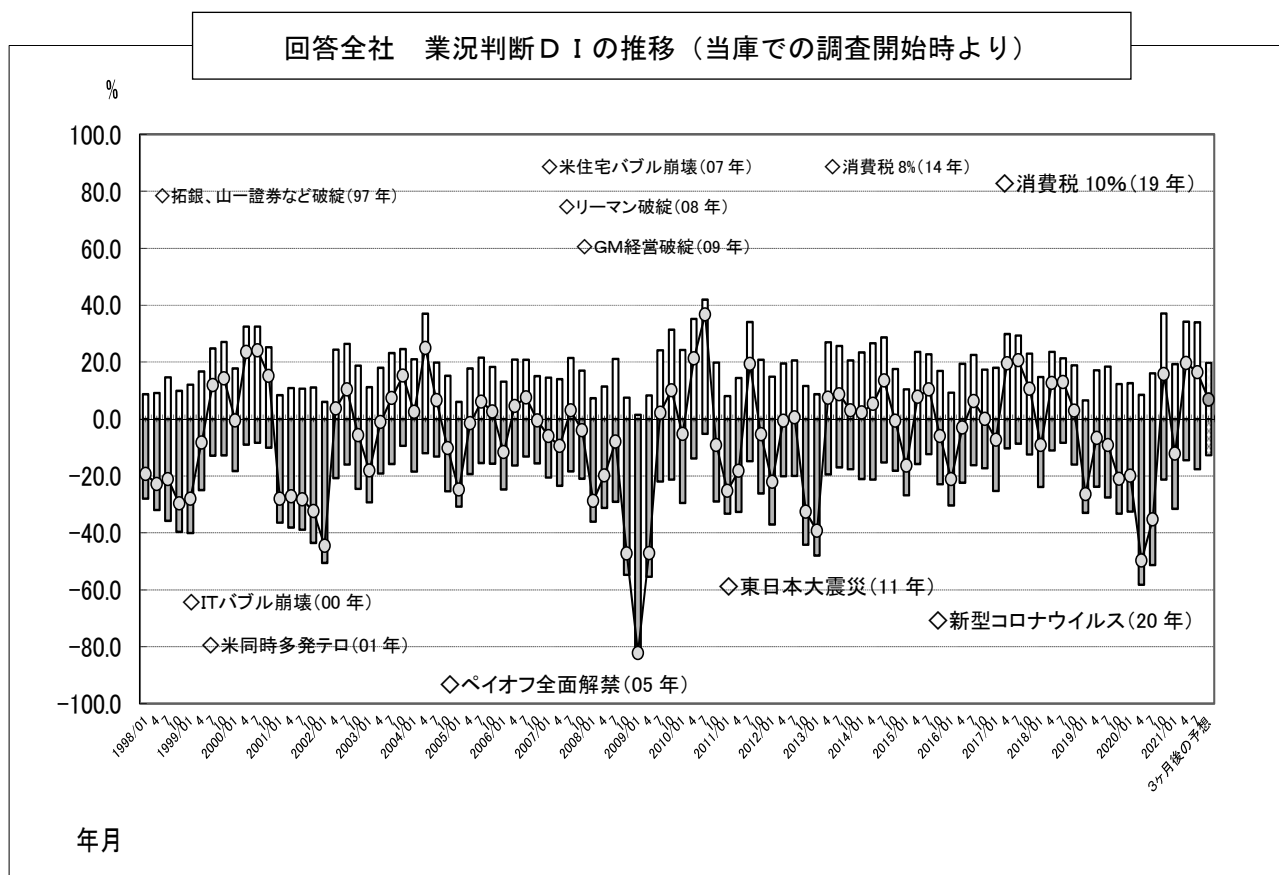
商業は、「3 ヶ月前」と比べ、来店客数DIは前回の△15.7 から△14.3 とやや改善したが、業況判断DIは△11.4 で、前回の△3.1 から悪化した。飲食店などでは、感染者数が減少傾向になった際一時的に来店客が増加したが、依然不安定な感染状況の影響を受けている。「前年同期比」では、業況判断DIが前回の△3.1 から△8.6、来店客数DIは前回の△9.4から△14.3と悪化した。客単価DIは前回の△12.5から8.6へ改善した。巣ごもり需要では、来店回数を抑え、1 回の購入量を多くする「まとめ買い」が定着してきている。東京五輪効果は、一部 4Kテレビの売上が伸びた店舗もあるが、総体的には波及効果が少なかった。「3 ヶ月後」の業況予想DIは、好転が 14.3%で、悪化は 20.0%の△5.7 で前回の△28.1 から改善している。

観光・サービス業は、本格的な行楽シーズンとなる中で、ワクチン接種の進行や非常事態宣言への慣れなどがあり、人の動きが止まらなくなっている。「3 ヶ月前」と比べて、前回△50.0 だった宿泊客数DIは今回 30.7 と大幅に伸び、業況判断DIも前回の△35.7 から 23.1 と改善した。「前年同期比」では、第 2 波の拡大期で GoTo トラベルの東京都除外があり、悪化企業のみだった前年に比べると、業況判断DIは 38.5 と改善している。「3 ヶ月後」の業況判断予想DIも 23.1 で、前回の△7.1から改善している。ただ、7 月下旬から諏訪地域の感染者が、県

の指標で「激増」状態となっていることへの懸念から、先行き不安がある。東京オリンピックの諏訪地方への波及効果はほとんど見られなかった。

建設業は、「3 ヶ月前」と比べた業況判断DIは△10.6 で前回の△14.2 からやや改善した。受注状況DIは△15.8 で前回の△23.9 からやや改善した。「3 ヶ月後」の業況予想DIは△10.5 で、前回の△23.8 から改善した。諏訪地方の2021年6月の新設住宅着工戸数は81戸で、前年同月比116戸減少(△58.8%)した。2021年4月～6月の累計着工戸数は225戸で、前年同期比97戸減少(△30.1%)した。2021年7月の市町村からの受注工事は合計94件875百万円で、大型工事があった前年同月比で件数は2件、契約金額は2,142百万円減少(△71.0%)した。2021年4～7月に地元業者が受注した国県関係の公共工事の累計は43件3,132百万円で、前年同期比で件数は8件減少し、契約金額は515百万円増加(19.6%)した。

雇用状況は、2021年6月の諏訪地方の有効求人倍率が、前年同月を0.18ポイント上回り、前月を0.02ポイント上回る1.23倍だった。1倍台は87ヵ月連続で維持している。前年同月は2ヵ月連続で上回った。長野県内は1.40倍だった。全国は1.13倍で、完全失業率は2.9%だった。諏訪地方は、新規求人数(全数)が1,636人で前年同月比388人増加(31.1%)し、新規求職者数は715人で前年同月比104人減少(△12.7%)している。産業別の前年同月比の新規求人数は、生活関連サービス・娯楽業が90.9%、製造業が74.9%増加したが、運輸業で5.6%減少した。1件10人以上の人員整理は0件だった。事業主都合による雇用保険資格喪失者は13人で、前年同月より67人減少し、前月より1人減少した。



新型コロナウイルス感染拡大の諏訪地方への影響

2021年7月は月上旬、県内全域の新型コロナウイルス感染警戒レベルが4ヵ月ぶりに「1」となり、沈静化に向かうと思われたが、東京都では4回目の緊急事態宣言が発令され、下旬には新規感染者が爆発的に増加した。諏訪圏域でも再拡大し、月末には警戒レベルが「4」に引き上げられた。他の全圏域もレベル3となり、知事は「第5波」の認識を示した。6ヵ月前に第3波、3ヵ月前は第4波、今回は第5波と、ほぼ調査時ごとに新型コロナウイルス感染の波が起き、安定しない状況が続いている。

回答全社は「3ヵ月前」に比べ、77.1%（前回79.2%）の企業が「多大」または「多少」の影響があるとしている。製造業では「コロナ前に戻った」とする企業も見られるが、宿泊業や飲食業などは、やや回復してはすぐに悪化する「波」に翻弄されながら、耐える状況が続いている。

産業別業況表

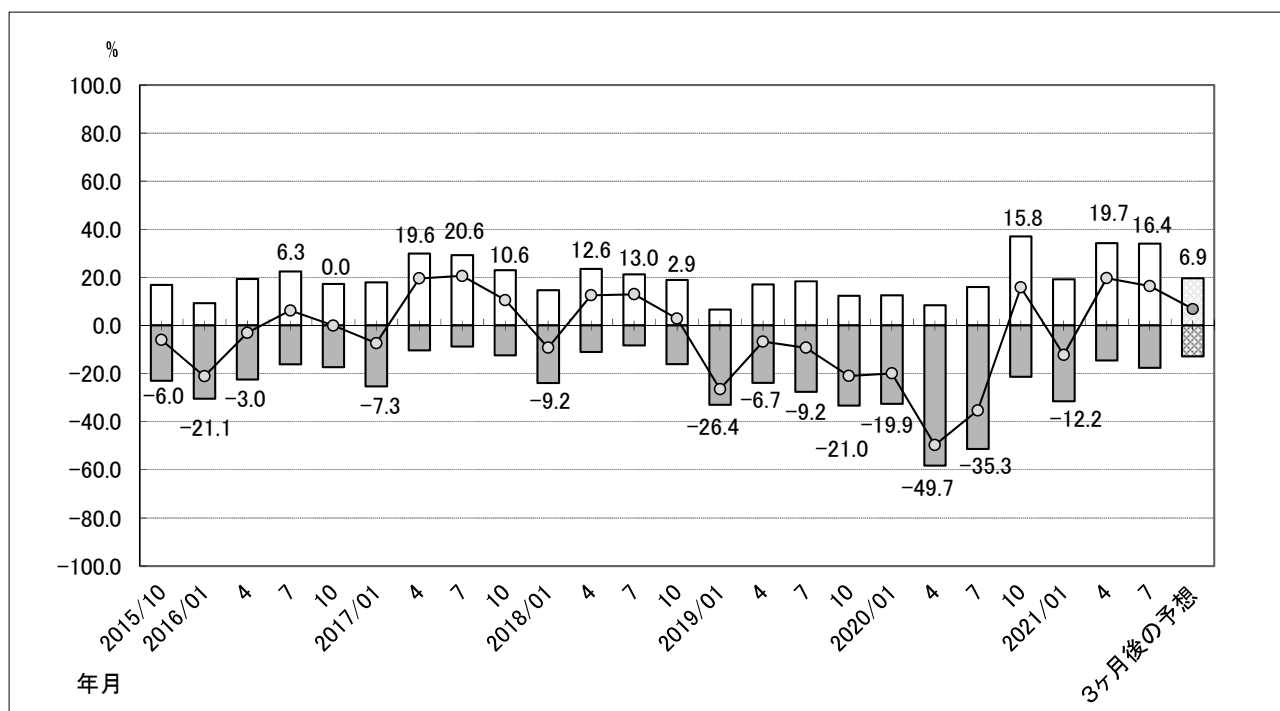
（企業数・%） 表-1

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
全 体	188	34.0	48.4	17.6	16.4	188	48.4	36.2	15.4	33.0	188	19.7	67.6	12.8	6.9
製造業	121	38.8	50.4	10.7	28.1	121	64.5	25.6	9.9	54.6	121	19.8	71.9	8.3	11.5
非製造業	67	25.4	44.8	29.9	-4.5	67	19.4	55.2	25.4	-6.0	67	19.4	59.7	20.9	-1.5
商 業	35	28.6	31.4	40.0	-11.4	35	17.1	57.1	25.7	-8.6	35	14.3	65.7	20.0	-5.7
建設業	19	10.5	68.4	21.1	-10.6	19	5.3	57.9	36.8	-31.5	19	15.8	57.9	26.3	-10.5
観光・サービス	13	38.5	46.2	15.4	23.1	13	46.2	46.2	7.7	38.5	13	38.5	46.2	15.4	23.1

自社業況判断DIの推移

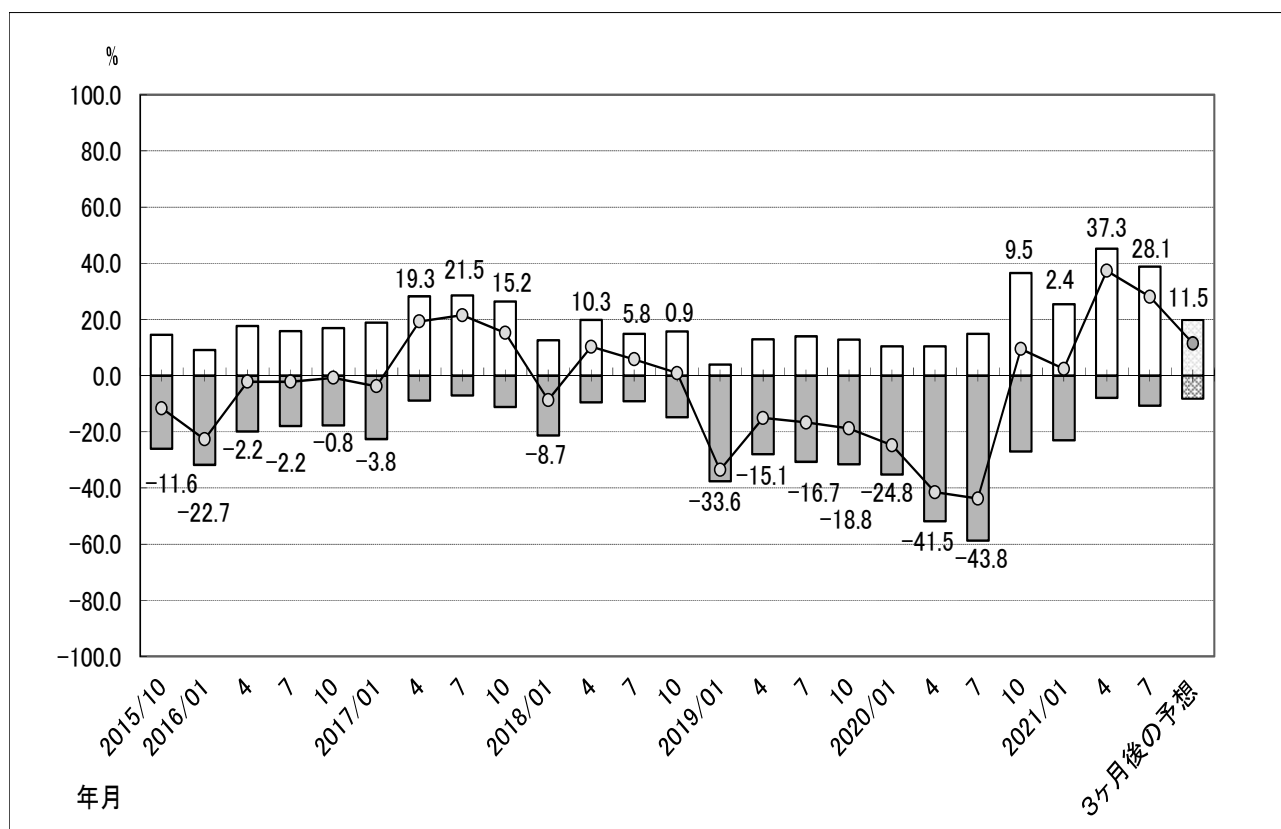
回答全社:「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-1



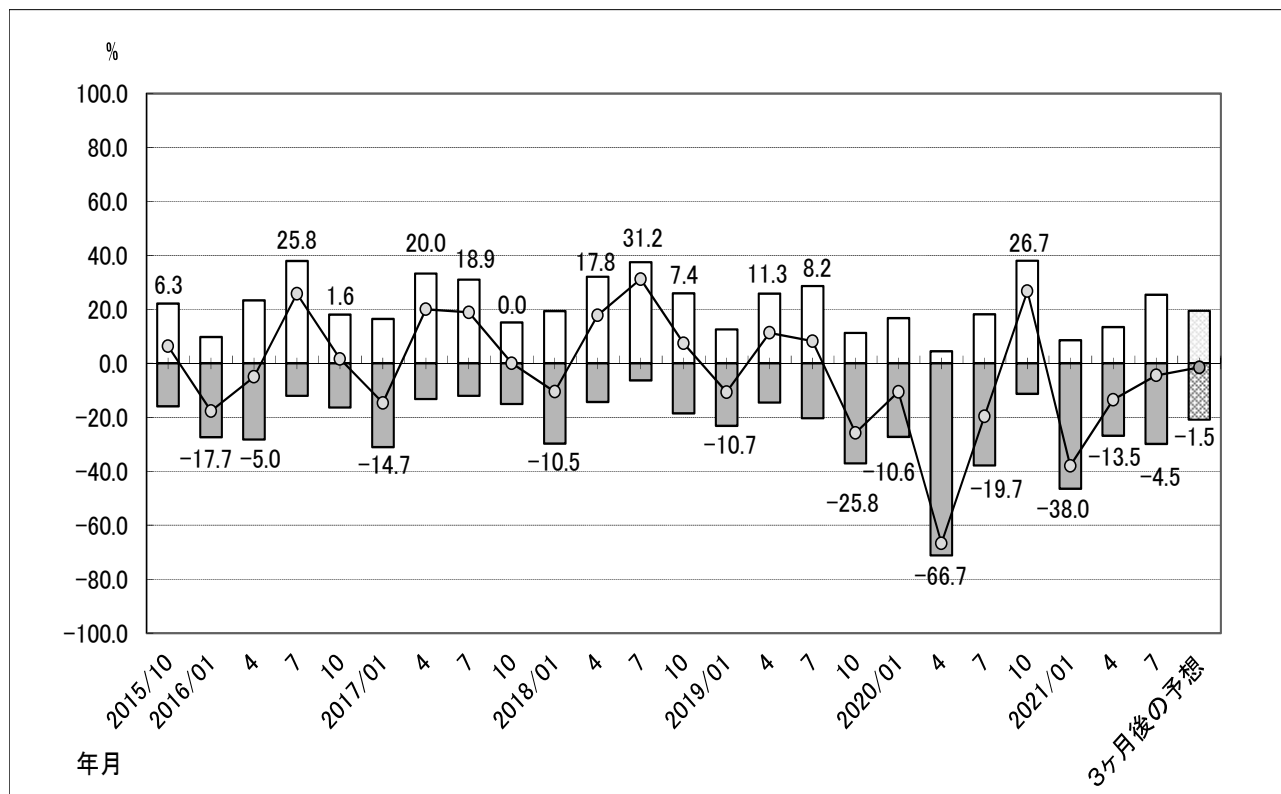
●製造業：「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフー2



●非製造業：「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフー3



産業別景気動向

1.製造業

業況判断DIは「3ヵ月前」と比べ28.1で、前回の37.3から悪化した。前年同期比は54.6で、前回の36.6から改善した。「3ヵ月後」の予想は11.5で、前回の11.2とほぼ同水準となっている。

設備投資DIは、「3ヵ月前」に比べ17.3で前回の14.3から改善し、「前年同期比」も前回の19.8から21.5へ改善した。「3ヵ月後」の予想DIは11.6で、前回の13.6からやや悪化した。

収益性DIは、「3ヵ月前比」で16.5と前回の11.9から4.6ポイント改善し、「前年同期比」は前回の16.6から33.9へ17.3ポイント改善した。「3ヵ月後」の予想も4.2で、前回の2.4から改善した。

業種別(主要5業種)の業況判断DIは「3ヵ月前」と比べて、「一般機械」が37.9(前回17.3)と改善したが、「金属製品」は19.3(同51.4)、「輸送用機械」23.1(同45.5)、「精密機械」が7.7(同25.0)と悪化した。「電気機械」は52.3(同52.2)でほぼ同水準だった。

「前年同期比」では、「金属製品」が58.0(前回42.8)、「電気機械」は76.2(同47.8)、「一般機械」は51.8(同20.7)、「精密機械」は61.5(同41.7)と改善し、「輸送用機械」は53.8(同63.6)とやや悪化した。

「3ヵ月後」の予想DIは、「金属製品」は19.4(前回8.5)、「精密機械」は7.7(同0.0)と改善したが、「電気機械」は0.0(同18.2)で悪化した。「輸送用機械」は0.0、「一般機械」は24.1で、前回と同率だった。

2021年1～6月の上半期の大手製造業の業績は、コロナ前を回復した企業が増えている。諏訪地方でも自動車や半導体関連を中心とした好調な受注状況から、7月の売上がここ数年で最高値だった企業がある。その一方で、世界的な需要の高まりで原材料が高騰し、材料調達が課題となる企業が増えている。3ヵ月後には、35.5%の企業が原材料不足になると予想し、納期や収益への影響を危惧する企業もある。また、今回の調査では、経営課題に「労働力の確保」を挙げる企業が最も多く、業況回復の一方で労働力不足が進んでいる。

製造業 業種別・規模別の自社業況表

表-2

		3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
		回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
製造業		121	38.8	50.4	10.7	28.1	121	64.5	25.6	9.9	54.6	121	19.8	71.9	8.3	11.5
規模	1～29人	64	35.9	48.4	15.6	20.3	64	50.0	34.4	15.6	34.4	64	18.8	70.3	10.9	7.9
	30～99人	42	42.9	50.0	7.1	35.8	42	76.2	19.0	4.8	71.4	42	21.4	71.4	7.1	14.3
	100人～	15	40.0	60.0	0.0	40.0	15	93.3	6.7	0.0	93.3	15	20.0	80.0	0.0	20.0
中分類	金属製品製造業	31	38.7	41.9	19.4	19.3	31	67.7	22.6	9.7	58.0	31	19.4	80.6	0.0	19.4
	一般機械器具製造業	29	44.8	48.3	6.9	37.9	29	62.1	27.6	10.3	51.8	29	31.0	62.1	6.9	24.1
	電気機械器具製造業	21	57.1	38.1	4.8	52.3	21	76.2	23.8	0.0	76.2	21	9.5	81.0	9.5	0.0
	輸送用機械器具製造業	13	23.1	76.9	0.0	23.1	13	61.5	30.8	7.7	53.8	13	7.7	84.6	7.7	0.0
	精密機械器具製造業	13	15.4	76.9	7.7	7.7	13	69.2	23.1	7.7	61.5	13	23.1	61.5	15.4	7.7

①諏訪地方製造品出荷額の70%を占める中分類5業種の業況

●金属製品(プレス、メッキ、熱処理など)

業況判断DIは「3ヵ月前」と比べ19.3で、前回調査時の51.4から悪化したが、「前年同期比」は58.0で前回の42.8から改善した。「3ヵ月後」の予想も19.4で前回の8.5から改善した。自動車関連業界からの受注が旺盛で、新規受注、見積とも増加しているが、納期や価格などについて、メーカーの強気な要請への対応に苦慮する企業がある。原材料費や燃料費の高騰で、収益が圧迫されている企業もある。

●一般機械(工作機械、専用機械、省力機械、検査機械など)

業況判断DIは「3ヵ月前」と比べて37.9で、前回の17.3から改善し、「前年同期比」も51.8で、前回の20.7から改善した。「3ヵ月後」の予想は24.1で、前回と同率だった。省力化機械は、自動車関連などで大型案件も出て回復傾向だが、資材の供給不足で発注の先送りが見られる。不足資材の代替品対応は、メンテナンス時や故障時のリスクが高く踏み切れないとする企業がある。自動車関連で、半導体の不足に伴う減産の影響が出ている企業もある。

●電気機械(家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、デジタルカメラなど)

業況判断DIは「3ヵ月前」と比べて52.3で、前回の52.2とほぼ同率だった。「前年同期比」は76.2で前回の47.8から大幅に改善した。「3ヵ月後」の予想は0.0で前回の18.2から悪化した。プリンターは先進国で在宅印刷需要が続き、新興国でも需要が改善した。プロジェクターは、欧米や中国の教育市場向けや家庭向けが好調だった。NC制御装置はリモートニーズや人手不足による自動化ニーズが増加している。

●輸送用機械(自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など)

業況判断DIは「3ヵ月前」と比べて23.1で、前回の45.5から悪化し、「前年同期比」も53.8で、前回の63.6から悪化した。「3ヵ月後」の予想は0.0で、前回と同率だった。自動車用半導体不足が長期化し、他業界との争奪戦が激化。車載電池に使われるレアメタルなどの素材も高騰している。増産要請があっても、材料の動きが悪くフル稼働できない企業がある。農機具関連は米国やアジアを中心に旺盛な受注が続いている。船外機は、在庫調整の終了や北米需要の増大で急激に受注が回復した。

●精密機械(時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など)

業況判断DIは「3ヵ月前」と比べて7.7で、前回の25.0から悪化したが、「前年同期比」は61.5で前回の41.7から改善した。「3ヵ月後」の予想も7.7で前回の0.0から改善した。非接触型の体温測定器に使用するレンズをはじめ、医療関係の受注が順調に推移している。圧力計も医療用を中心に、受注が旺盛。ただ、材料価格高騰や品不足が深刻で、生産スケジュール調整に苦慮する企業がある。

②規模別業況

業況判断DIは、「3ヵ月前」と比べて「1～29人」規模は前回の37.1から20.3へ悪化し、「30～99人」規模は前回の27.5から35.8へ改善した。「100人以上」規模は前回の62.5から40.0へ悪化した。「前年同

期比」は「1～29 人」規模が前回の 12.9 から 34.4 へ改善し、「30～99 人」規模も前回の 57.5 から 71.4 へ改善した。「100 人以上」規模も前回の 87.5 から 93.3 へ改善した。一方、「3 ヶ月後」の予想は、「1～29 人」規模が前回の 5.7 から 7.9 へやや改善したが、「30～99 人」規模は前回の 23.1 から 14.3 へ悪化した。「100 人以上」規模は前回の 6.3 から 20.0 へ改善した。

③受注状況DI(規模別、業種別)

製造業全社の「3 ヶ月前」と比べて受注状況DIは「増加」企業 44.6%、「減少」企業 12.4%で 32.2 と、前回調査時の 36.5 からやや悪化した。前年同期比は 57.1 で前回の 33.4 から改善した。「3 ヶ月後」の予想も前回の 10.4 から 14.1 へ改善した。

規模別の受注状況DIは「3 ヶ月前」と比べて、「1～29 人企業」は 26.6 で前回の 27.1 からやや悪化し、「30～99 人企業」も 31.0 で前回の 32.5 からやや悪化した。「100 人以上企業」は 60.0 で前回の 87.5 から悪化した。「前年同期比」は、「1～29 人企業」が 42.2 で前回の 11.4 から改善し、「30～99 人企業」も 64.3 で前回の 50.0 から改善した。「100 人以上企業」は 100 で前回の 87.5 から改善した。「3 ヶ月後」の予想は「1～29 人企業」が 14.1 で前回の 2.9 から改善したが、「30～99 人企業」は 14.3 で前回の 25.7 から悪化し、「100 人以上企業」は 13.3 で前回の 6.3 から改善した。

業種別(主要 5 業種)の「3 ヶ月前比」は、「電気機械」は前回の 47.8 から 61.9、「一般機械」は 13.8 から 44.9 へ改善したが、「金属製品」が 45.7 から 29.0、「輸送用機械」が 72.7 から 23.1、「精密機械」が 16.7 から 15.4 へ悪化した。「前年同期比」では、「金属製品」が前回の 28.5 から 70.9、「電気機械」は 39.1 から 76.2、「一般機械」は 34.5 から 58.7、「精密機械」は 33.4 から 46.1 へ改善したが、「輸送用機械」は 72.7 から 53.8 へ悪化した。「3 ヶ月後」の予想は、「金属製品」が前回の 2.8 から 25.8、「精密機械」は△8.4 から 15.4 へ改善し、「電気機械」が 27.3 から 9.5、「一般機械」が 20.7 から 17.2 へ悪化した。「輸送用機械」は 0.0 で同水準だった。

業種別・規模別受注状況表

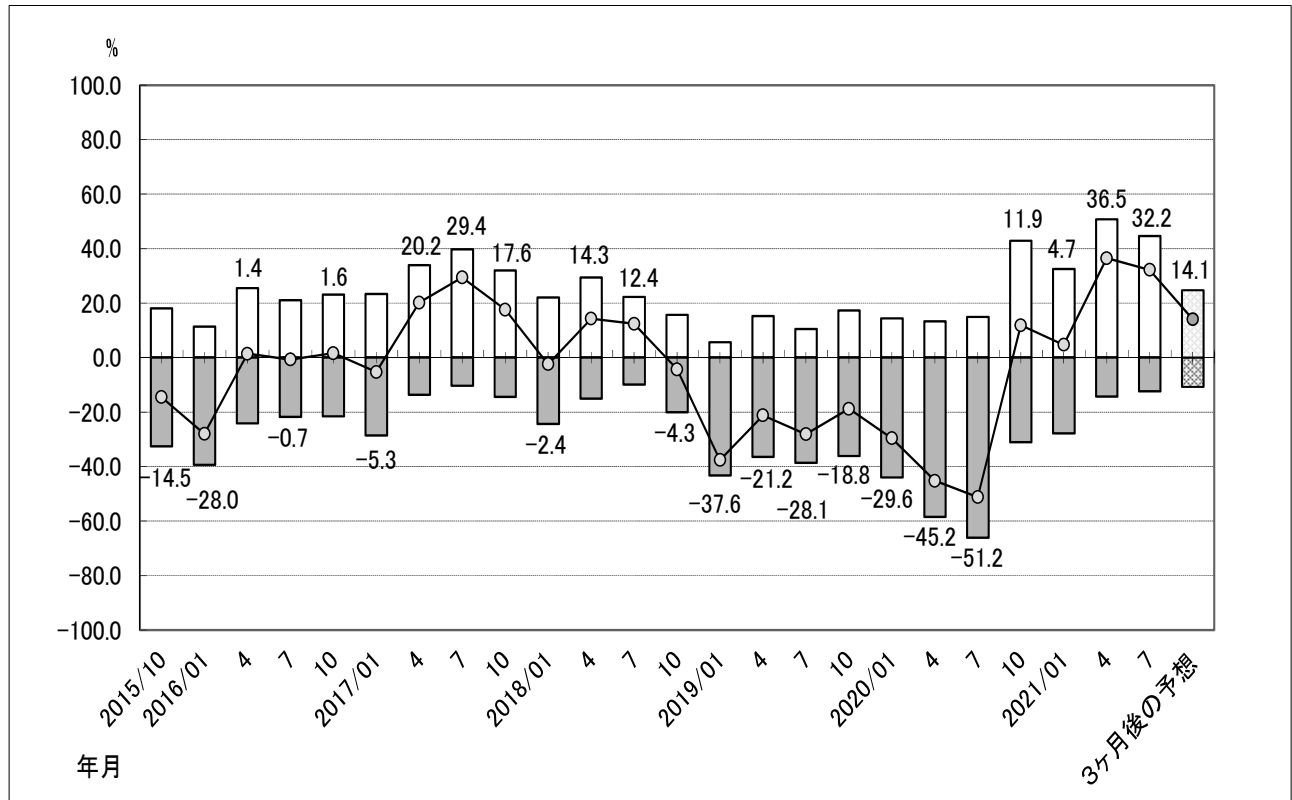
表－3

		3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
		回答 企業	増加	不変	減少	DI	回答 企業	増加	不変	減少	DI	回答 企業	増加	不変	減少	DI
製造業		121	44.6	43.0	12.4	32.2	121	67.8	21.5	10.7	57.1	121	24.8	64.5	10.7	14.1
規模	1～29人	64	42.2	42.2	15.6	26.6	64	57.8	26.6	15.6	42.2	64	26.6	60.9	12.5	14.1
	30～99人	42	42.9	45.2	11.9	31.0	42	71.4	21.4	7.1	64.3	42	23.8	66.7	9.5	14.3
	100人～	15	60.0	40.0	0.0	60.0	15	100.0	0.0	0.0	100.0	15	20.0	73.3	6.7	13.3
中分類	金属製品 製造業	31	41.9	45.2	12.9	29.0	31	77.4	16.1	6.5	70.9	31	29.0	67.7	3.2	25.8
	一般機械 器具製造業	29	55.2	34.5	10.3	44.9	29	69.0	20.7	10.3	58.7	29	24.1	69.0	6.9	17.2
	電気機械 器具製造業	21	61.9	38.1	0.0	61.9	21	76.2	23.8	0.0	76.2	21	23.8	61.9	14.3	9.5
	輸送用機械 器具製造業	13	23.1	76.9	0.0	23.1	13	61.5	30.8	7.7	53.8	13	15.4	69.2	15.4	0.0
	精密機械 器具製造業	13	30.8	53.8	15.4	15.4	13	69.2	7.7	23.1	46.1	13	30.8	53.8	15.4	15.4

製造業の受注状況DIの推移

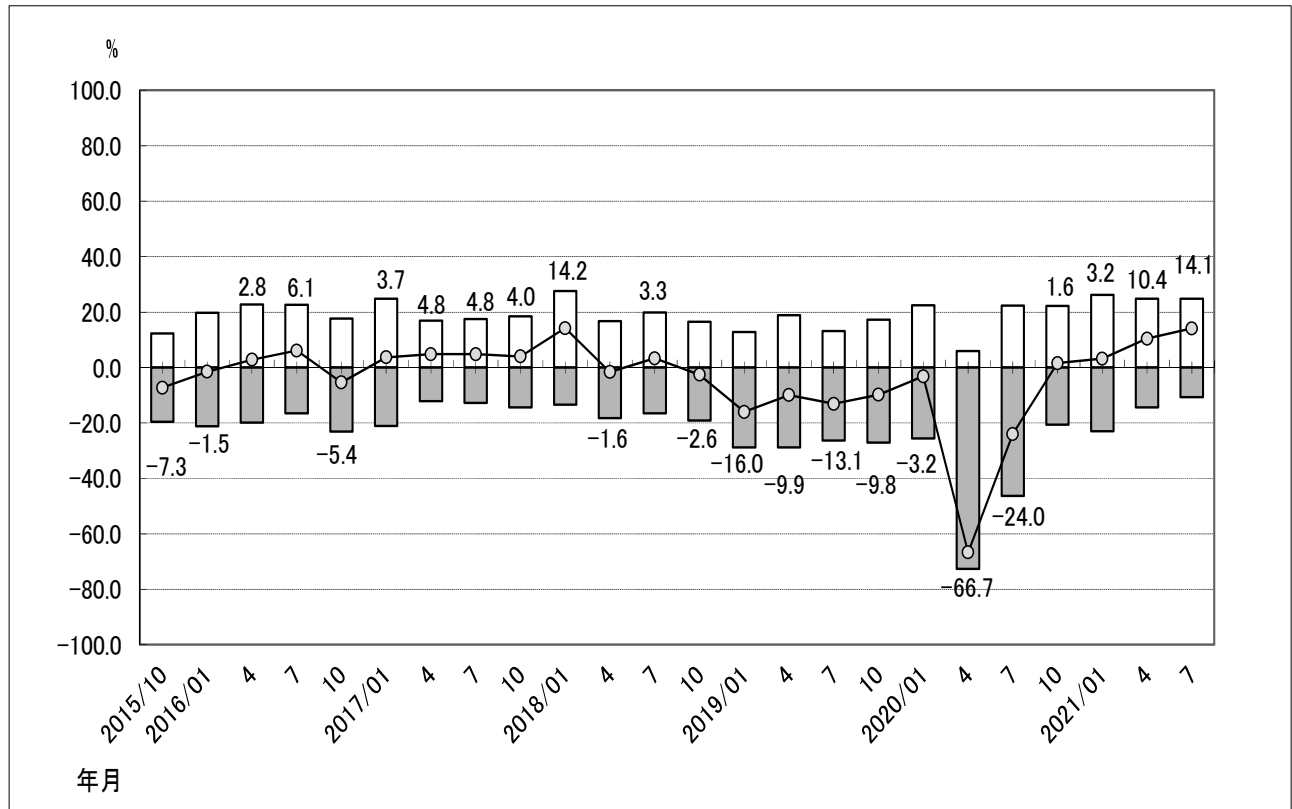
●製造業全社:「3ヵ月前」と比べた受注状況DIの推移

グラフー4



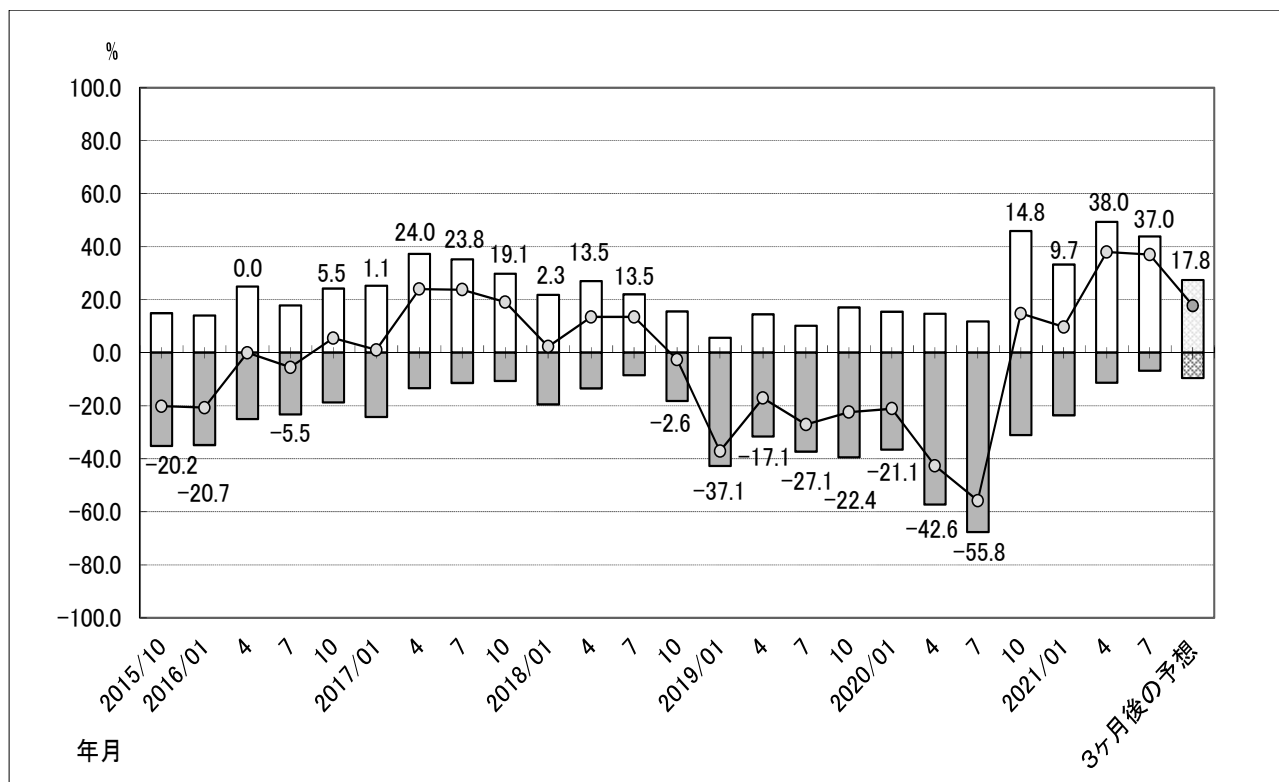
●製造業全社:「3ヵ月後」の受注予想DIの推移

グラフー5



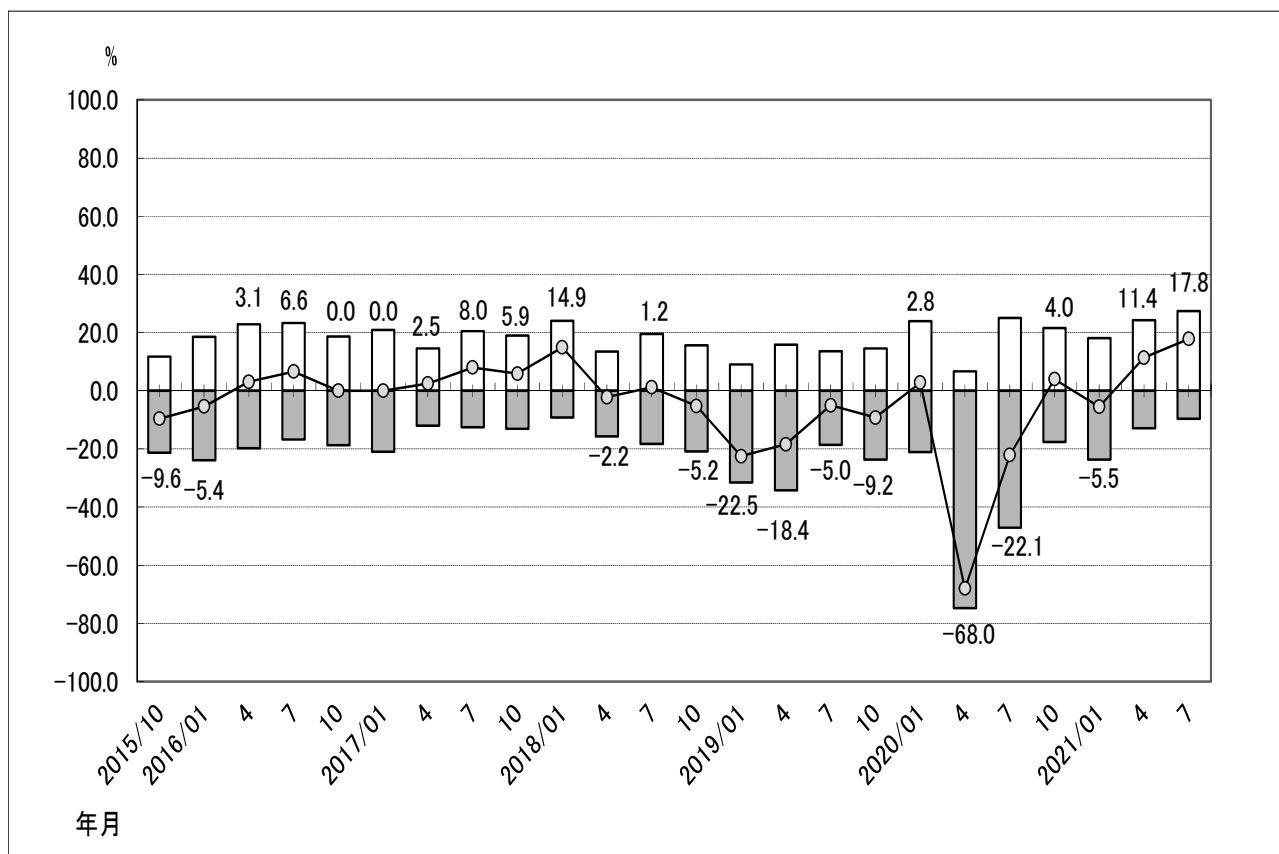
●製造業 主要5業種:「3ヵ月前」と比べた受注状況DIの推移

グラフー6



●製造業 主要5業種:「3ヵ月後」の受注予想DIの推移

グラフー7



2. 商業・観光サービス業

① 商業

小売店や飲食店などでは、キャッシュレス還元キャンペーンなどの施策もあって、7月下旬までは来店客が増加した。遠方からの来店客が7割以上という店舗もあった。しかし、警戒レベル引き上げで客足が止まった。夏休みの帰省客や観光客が多い8月の売上も前年同様、期待できないとする店舗が多くなっている。

- 大型店 食料品は昨年に比べて「巣ごもり需要」が減少傾向。行楽用の衣料や関連商品の動きも鈍い。一方、コロナ禍で移動や対面ができないため、お中元などの贈答品は好調。
- 自動車 諏訪地方の7月の車庫証明件数(軽自動車除く)は837件で、前年同月比では130件減少(△13.4%)した。新車の生産を調整しているメーカーの影響が出ている。
- 書店 コミックや子供向け書籍が好調だが、東京五輪関連の本の売上は低調だった。
- ガソリン 販売量は前年並みだが、世界経済回復で単価が上昇し165円/ℓ台となったスタンドがある。
- 家電 気温が高く、扇風機や空気清浄機、エアコン関連商品の販売は好調だった。東京五輪に合わせた4Kテレビは店舗によって売れ行きが異なった。
- 飲食店 夜のコースや宴会は、直前のキャンセルが予想されるため、常連客に限定したり、感染防止に向け、県外者の入店を断った店舗があった。

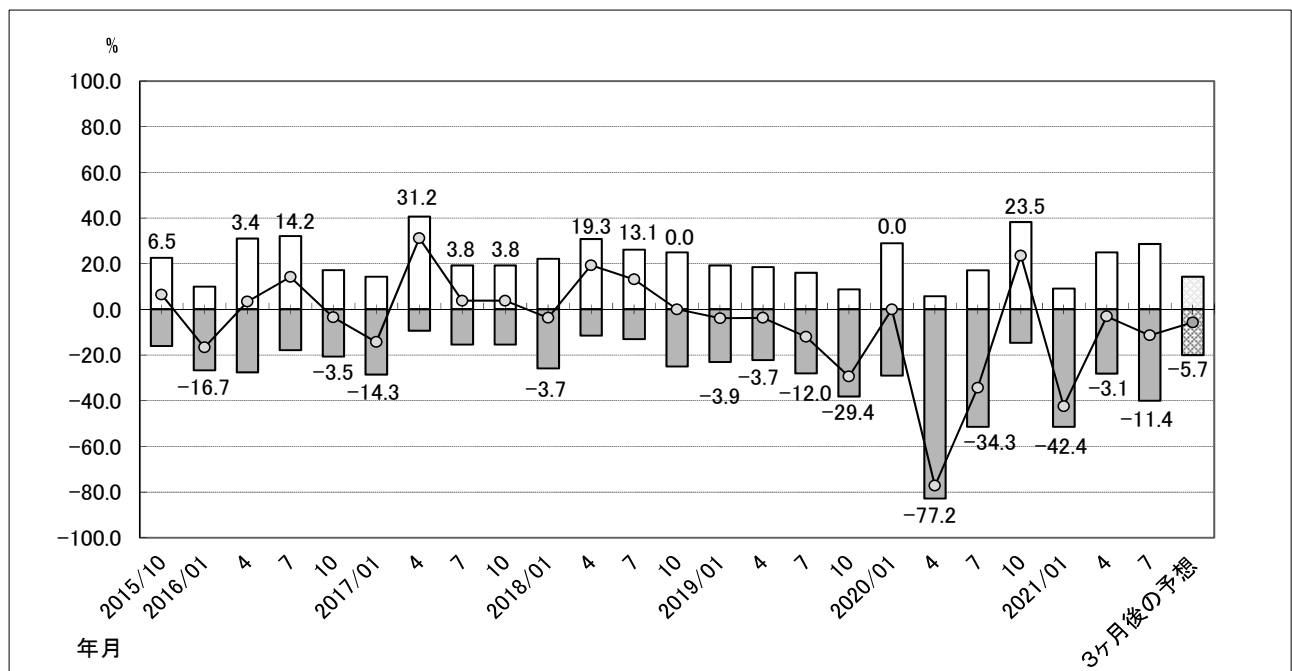
業況、客単価、来店客数

表-4

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業 況	35	28.6	31.4	40.0	-11.4	35	17.1	57.1	25.7	-8.6	35	14.3	65.7	20.0	-5.7
客単価	35	8.6	82.9	8.6	0.0	35	14.3	80.0	5.7	8.6	35	11.4	77.1	11.4	0.0
来店客数	35	20.0	45.7	34.3	-14.3	35	20.0	45.7	34.3	-14.3	35	14.3	65.7	20.0	-5.7

●商業全社:「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-8



② 観光・サービス業

7月の諏訪地方の宿泊者数は、県民割や市民割など各種割引キャンペーンの効果があり、一昨年には及ばないものの、前年同月比では増加した。緊急事態宣言地域からも、ワクチン接種が終わったとみられる宿泊客が訪れた。ただ、東京都の緊急事態宣言では少なかった県内客の予約キャンセルが、下旬から諏訪圏域で感染が拡大したことで増加した。8月のキャンセルは、単価を高く設定した施設が多く、ダメージが大きい。

●上諏訪温泉 「信州割スペシャル」＋「すわ御宿割」や諏訪湖サマーナイト花火などの効果で、6月より宿泊客が1万人以上増加した。ビジネス客も例年に近い状態まで回復している。ただ、今後は感染警戒レベルの動向に左右される。

●下諏訪温泉 夏休みに入って宿泊客が増加したが、8月は予約キャンセルが増加している。

●蓼科・白樺湖 7月の4連休は満室の宿泊施設が多く、7月としては過去5年で最高の売上となった宿泊施設もある。市民割と県民割を併用した宿泊客が中心の施設は、緊急事態宣言によるキャンセルも少なかった。ただ、8月の感染拡大への危機感強い。

●諏訪大社 上社・下社合わせた7月の参拝者数は約4万4千人で、前年同月比約380人増加(0.9%)した。

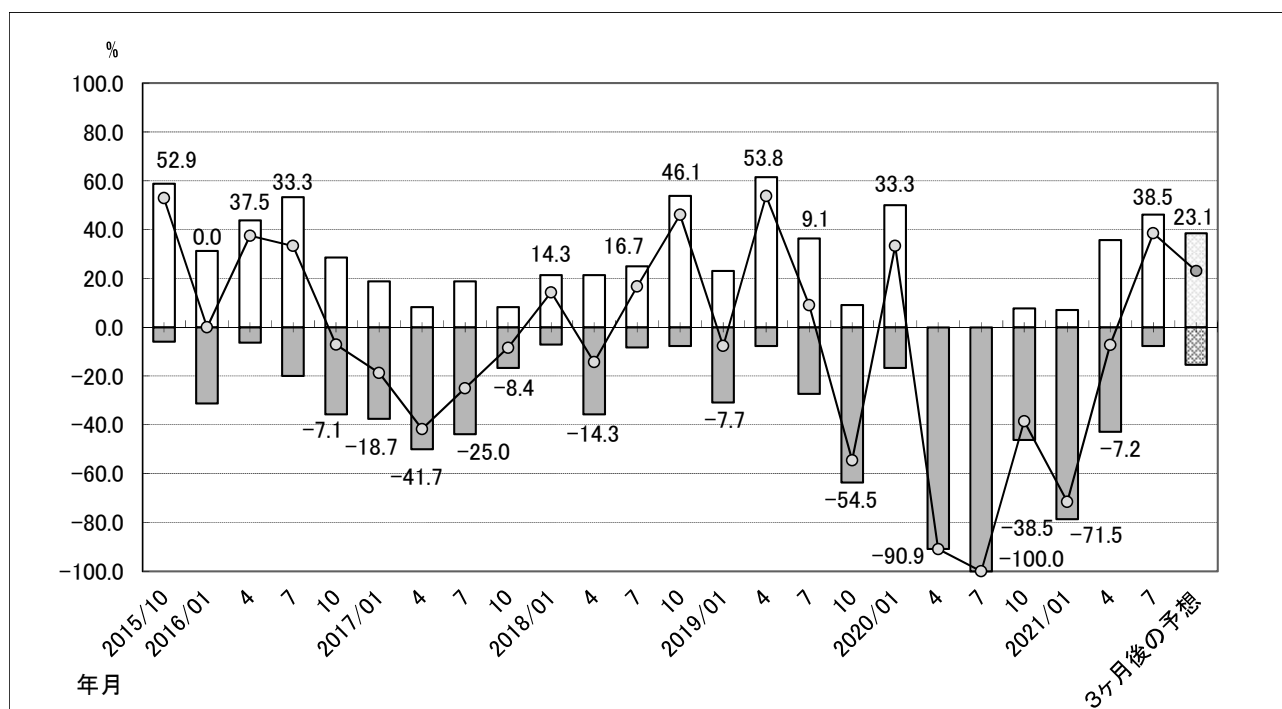
業況、売上、宿泊客

表－5

	3カ月前と比べて					前年同期と比べて					3カ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業 況	13	38.5	46.2	15.4	23.1	13	46.2	46.2	7.7	38.5	13	38.5	46.2	15.4	23.1
客単価	13	46.2	46.2	7.7	38.5	13	46.2	46.2	7.7	38.5	13	23.1	61.5	15.4	7.7
宿泊客数	13	53.8	23.1	23.1	30.7	13	53.8	30.8	15.4	38.4	13	23.1	46.2	30.8	-7.7

●観光・サービス業全社:「前年同期」と比べた業況判断DIの推移

グラフー9



3.建設業

受注状況DIは「3ヵ月前」と比べ、前回の△23.9から△15.8、「前年同期比」は前回の△47.6から△36.8と改善しつつある。外注発注量DIも「3ヵ月前」と比べ、△28.5から△15.8と改善傾向になっている。ただ、ウッドショック下で、原材料は3ヵ月前比で27.8%、前年同期比で36.8%の企業が不足し、「3ヵ月後」は42.1%の企業が不足するとみている。諏訪地方の2021年4～6月の新設住宅着工戸数は持家193戸、貸家20戸、分譲12戸の合計225戸となり、前年同期比で97戸、30.1%減少した。前年建設された大手企業関係住宅の反動がある。

●建築工事

諏訪地方の2021年6月の各市町村の新設住宅着工戸数は岡谷市13戸、諏訪市20戸、茅野市33戸、諏訪郡15戸の合計81戸だった。長野県全体の6月の新設住宅着工戸数は1,290戸で、前年同月比6.0%減少した。持ち家は7ヵ月連続の増加、貸家は4ヵ月ぶりの増加、分譲は前年同月と同値となった。

●公共工事

2021年7月に地元業者が受注した国県関係の公共工事は、18件700百万円だった。また、市町村からの受注工事は、建築工事2件77百万円、土木・水道工事56件563百万円、その他工事36件235百万円だった。

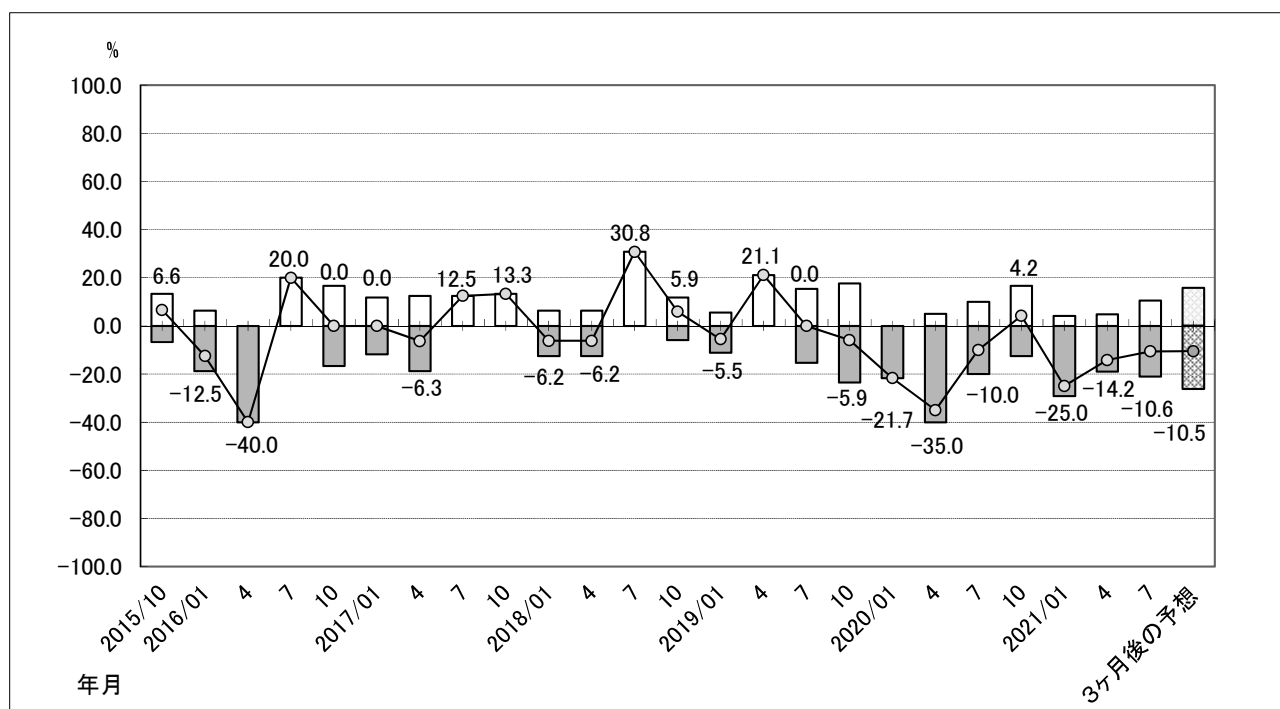
業況、受注状況、外注発注量

表－6

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業 況	19	10.5	68.4	21.1	-10.6	19	5.3	57.9	36.8	-31.5	19	15.8	57.9	26.3	-10.5
受注状況	19	15.8	52.6	31.6	-15.8	19	5.3	52.6	42.1	-36.8	19	15.8	52.6	31.6	-15.8
外注発注量	19	10.5	63.2	26.3	-15.8	19	15.8	47.4	36.8	-21.0	19	21.1	57.9	21.1	0.0

●建設業全社:「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフー10

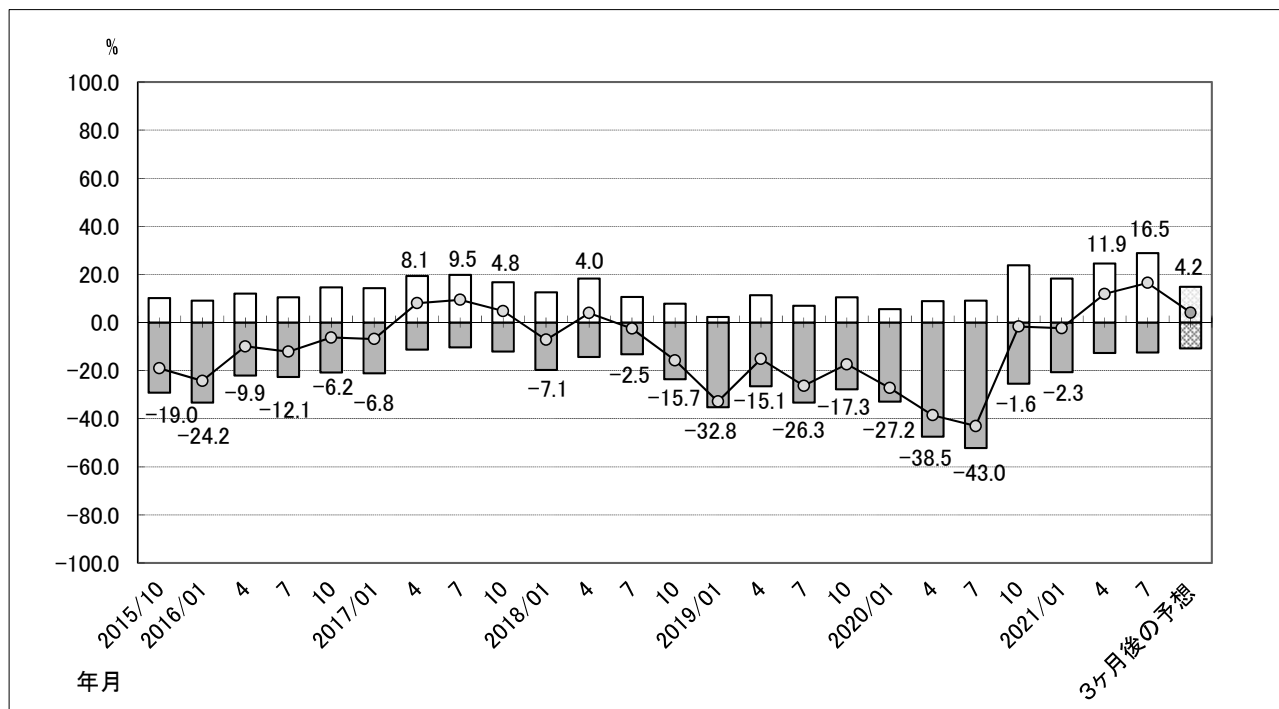


4.収益性状況

回答全社の「3ヵ月前」と比べた収益性は「好転」企業 23.4%、「悪化」企業 18.6%で、同DIは4.8と前回調査時の 1.0 から改善した。製造業は 16.5 で前回の 11.9 からやや改善した。非製造業は△16.5 で前回の△19.4 から改善しているが、依然マイナス水準が続く。回答全社の「前年同期比」は 17.5 で、前回の 5.7 から改善した。「3ヵ月後」の予想DIは、製造業が 4.2 で前回の 2.4 から改善し、非製造業も△7.5 で前回の△16.5 から改善した。回答全社では 0.0 となり、前回の△4.2 から改善した。

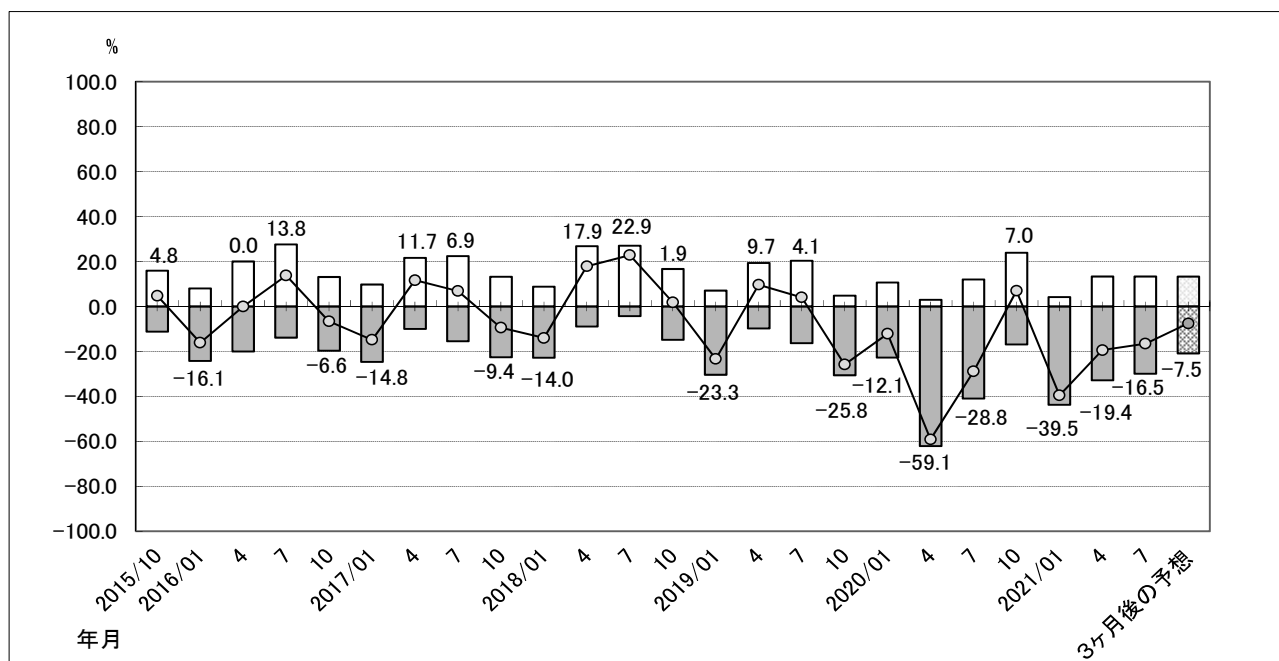
●製造業:3ヵ月前と比べた収益性DI

グラフー11



●非製造業:3ヵ月前と比べた収益性DI

グラフー12



5.経営上の課題（3つまでの複数回答）

経営上の課題として①製造業は労働力確保と売上減少②商業は売上減少と労働力確保③建設業は労働力確保と売上減少④観光・サービス業は売上減少と人件費、労働力確保となっている。

経営上の課題	合 計	製 造 業	商 業	建 設 業	観光・サービス業
売 上 減 少	74	32	24	8	10
単 価 引 下 げ	21	15	3	2	1
競 争 激 化	25	14	4	6	1
資 金 繰 り	30	17	6	3	4
人 件 費	36	21	7	3	5
労 働 力 確 保	91	61	16	9	5

6.諏訪地方主要経済指標

主要指標		実 数	前年同期比
有効求人倍率【6月】	ハローワーク諏訪	1.23 倍	0.18 ポイント
手形交換高 【7月】 (諏訪手形交換所扱)	枚 数	2,527 枚	△976 枚
	金 額	3,352 百万円	△1,394 百万円
	うち不渡り 発生状況	枚 数	0 枚
		金 額	0 千円
車庫証明取扱件数【7月】（諏訪地方合計）		837 件	△13.4 %
新設住宅着工戸数【2021年4月～6月】（諏訪管内）		225 戸	△30.1 %

7.調査概要

DI調査：業況などが「好転」と答えた企業割合から「悪化」と答えた企業割合を引いた数値。

- ① 調査期間 2021 年 7 月。
- ② 調査内容 「2021 年 7 月時点」の実績と、「3 ヶ月前」と「前年同期」の業績比較および「3 ヶ月後」の予想。
- ③ 調査方法 DI調査および約 130 社のヒアリング調査。
- ④ 回答企業数 188 企業。
- ⑤ 回答率 75.2%

DI調査状況

	製造業	商 業	建 設 業	観光・サービス業	合 計
依 頼 数	160	40	30	20	250
回 答 数	121	35	19	13	188

経済力と獲得メダルは関係するのか

東京オリンピックが閉幕しました。オリンピックでの各国の金メダル獲得数と名目GDPとの関係を調べたら結構面白かったのでその概略を説明します。

今回の東京オリンピックでは、私が計算したところ、金メダルが合計337個選手たちに渡されました。米国がトップの39個、2位が中国の38個、3位は日本の27個です。

一方、全世界の名目GDPは約88兆ドルと推計されます。上位15か国でGDPのシェアは72%、金メダルシェアは70%程度なので、ほぼGDPと金メダルシェアは一致していると言えます。



GDPシェアより金メダル数が少ない米中

各国の金メダル数とGDPのシェアとを比較してみると、また違った側面が見えます。米国(39個)はGDPでは世界の約25%のシェアを持つのに対し、総金メダル数(337個)は11.6%にしかありません。メダル獲得シェアをGDPシェアで割った数字は、0.46倍です。つまり、稼いでいるGDPほど金メダルが取れていないということです。

意外なのは中国です。中国は「国を挙げて」オリンピックに取り組んでいるようにも見えますが、世界のGDPシェアの18.7%に対して金メダルのシェアは11.3%です。中国も米国同様、GDP

	金メダル数	シェア①	名目GDP	シェア②	①÷②
1 米国	39	11.6%	21.9	24.9%	0.46
2 中国	38	11.3%	16.5	18.7%	0.60
3 日本	27	8.0%	5.1	5.8%	1.38
4 英国	22	6.5%	2.9	3.3%	2.01
5 ROC	20	5.9%	1.6	1.8%	3.31
6 オーストラリア	17	5.0%	1.5	1.7%	3.00
7 オランダ	10	3.0%	1.0	1.1%	2.59
8 フランス	10	3.0%	2.9	3.3%	0.89
9 ドイツ	10	3.0%	4.3	4.9%	0.60
10 イタリア	10	3.0%	2.1	2.4%	1.24
11 カナダ	7	2.1%	1.8	2.0%	1.04
12 ブラジル	7	2.1%	1.4	1.6%	1.28
13 ニュージーランド	7	2.1%	0.2	0.2%	8.70
14 キューバ	7	2.1%	0.1	0.1%	18.28
15 ハンガリー	6	1.8%	0.2	0.2%	10.45
15か国合計	237	70.3%	63.4	72.1%	0.98
総数	337		88.0		
	(個)		(兆ドル)		(倍)

ほどメダルは獲得できていないと言えます。強引とも言える世界でのプレゼンス獲得を考えると、少し意外な感じもします。来年の北京冬季オリンピックでのメダル獲得数に注目したいものです。

経済力と同等の五輪開催国

一方、経済力とほぼ同等のメダル点数を獲得している国々は、フランス、カナダ、イタリアです。金メダル獲得シェアをGDPシェアで割った倍率をみると、これらの国々は1倍前後です。経済的プレゼンスとほぼ同等のメダルを獲得していると言えます。

日本は1.38倍、ブラジルも1.28倍と、経済力を少し上回るメダルを獲得しています。

よく見てみると、日本が開催国、フランスは次期開催国、そしてブラジルは前回オリンピックの開催国です。日本は開催国としてかなりの「気合い」が入っていたことは間違いありませんが、これは偶然の一致なのかは私には不明です。

経済力以上のメダルを獲得国々

最後は経済力以上のメダルを獲得している国々です。上位国でまず目につくのはROCです。国を挙げてのドーピング問題で、ロシアという国名では参加できませんでしたが、それでも金メダル数では5位で、シェアは5.9%です。一方、世界のGDPに占めるシェアは1.8%ですから、メダル点数シェアとGDPシェアを比べた場合の倍率は、なんと3.3倍となります。経済力に比べて、メダル獲得数が格段に多いと言えます。

同様にオーストラリアやオランダも、経済力に比して多くのメダルを獲得している国だと言えます。経済規模の小さな国では、ニュージーランド、キューバ、ハンガリーが目立ちます。

ひとりあたりGDPとは相関は低い

今回調べた限りでは、ひとりあたりのGDPとメダル獲得との相関はないと感じました。

米国(6.6万ドル)や5万ドルを超える欧州諸国がある一方、ブラジルやキューバのようにひとりあたりのGDPが9千ドル程度の国でも金メダル獲得では15位以内に入る健闘をしています。

表にはありませんが、ひとりあたりGDPが2千ドル程度とかなり低いケニアは陸上を中心に4つの金メダル、4つの銀、2つの銅を獲得しています。

豊かさを糧にスポーツに打ち込むことのできる選手を擁する国々、貧困をバネにがんばる選手を輩出する国々、そして、国の支援の度合いが、メダル数となって表れていると思います。

「諏訪の景気動向」についてのご意見、ご要望は
諏訪信用金庫 総務部へ
電話 0266-23-4567